

演題：**The Art of Process Chemistry**

講師：**Dr. Nobuyoshi Yasuda**

Department of Chemistry, The University of
Tokyo, Japan



日時：2018年11月26日（月）16:30~18:00

場所：フロンティア応用科学研究棟 1階セミナー室1

要旨：

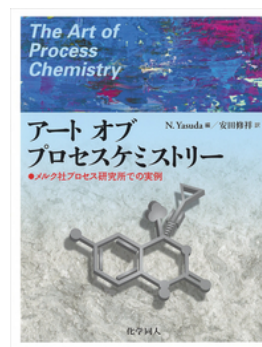
In every field, it becomes the state of art when one pursues ultimate efficiency. In Process Chemistry, the goal is to develop the best chemistry to maximize efficiency of the process and to increase the accessibility of the drug to patients worldwide. In order to achieve this goal, Process Chemistry should be sublimed into the statue of art though a deep understanding of chemistry. Two examples will be discussed at this symposium.

製薬会社の開発研究では、実験室レベルで合成した化合物を臨床試験に通して医薬品にするメディシナルケミストリーと、目的の医薬品を安価で安全にかつ安定的に供給するプロセスケミストリーが重要な柱となっています。製薬会社の研究と聞くと、前者を思い浮かべる方が大半を占めるとは思いますが、化学工学を背景とする後者を無くして製薬会社は成り立ちません。

安田 修祥 博士は、米国の最大手製薬会社メルクのプロセス化学研究所にて上級主席研究員として長年に渡りご活躍され、海外の製薬会社で大きな成功を収めた数少ない日本人の一人です。また、そのご功績は著書として出版されております（右図）。

本講演会は、工学的な側面からの医薬品開発研究を知る絶好の機会ですので、興味のある方は是非ご参加ください。

なお、本講演会は日本語で行われます。



連絡先：工学研究院応用化学部門 伊藤 肇（内線：6561）

フロンティア化学教育研究センター